

渋川市における食品ロス実態調査結果について（概要）

1 背景

「食品ロス」とは、本来食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことで、我が国では年間約570万トン、うち家庭系は261万トンとされています。（令和元年度推計）

当市では、市内での家庭系食品ロスの実態を調査し、食品ロスの削減の推進及びごみの減量化・資源化を推進するための基礎資料を取得する目的で実施しました。

2 調査方法

（1）サンプル採取

渋川市内を①農村部（伊香保、小野上、子持、赤城、北橘）及び②市街地（渋川、金島、古巻、豊秋）の2地区に分け、各地区のもえるごみ袋を採取する。

（2）食品廃棄物の分類

もえるごみのうち、食品廃棄物（厨芥ごみ）を取り出し、そのうち「直接廃棄」及び「食べ残し」を食品ロスとして重量を調査する。

3 調査結果

- もえるごみのうち食品廃棄物は30.8%であった。
- 食品廃棄物のうち食品ロスは28.9%であった。
- もえるごみのうち食品ロスは約8.9%発生している。
- 1人1日あたりの家庭系食品ロスの発生量は55.8gであった。

*市内全域での結果を示しています。 *計算結果は重量ベースです。

4 渋川市における食品廃棄物及び食品ロスの状況

